



展覧会名	モニック・フリードマン展		
会期	2011年11月23日(水・祝) → 2012年3月20日(火・祝)		
	開場時間 / 10時～18時(金・土曜日は20時まで)チケットの販売は開場30分前まで		
	休場日 / 毎週月曜日(ただし、1月2日、9日、3月19日は開場)、12月29日～1月1日、1月10日		
会場	金沢21世紀美術館 展示室11、12、14、及び通路スペース	出品点数	13点
料金	◎ 一般1,000円(800円) / 大学生800円(600円) / 小中高生400円(300円) / 65歳以上の方800円 ※( )内は団体料金(20名以上)及び前売りチケット料金 ※「押忍!手芸部」と豊嶋秀樹『自画大絶賛(仮)』展との共通観覧券になります。 ※本展チケットにて「サイレント・エコー コレクション展II」も観覧可  前売りチケット: チケットびあ tel.0570-02-9999 (Pコード:764-839) ローソンチケット tel.0570-000-777 (Lコード:58013) 販売期間: 10月23日より2012年3月20日まで		
主催	金沢21世紀美術館 [公益財団法人金沢芸術創造財団]		
共催	読売新聞社、美術館連絡協議会		
助成	INSTITUT FRANÇAIS	協賛	フランス大使館、ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン
協力	JCDecaux、GLACE CONTROLE、ボジェナ・ギャルリ		
コーディネーター	ボジェナ・ジドロル		
お問い合わせ	金沢21世紀美術館 TEL 076-220-2800		

本資料に関する  
お問い合わせ

金沢21世紀美術館 展覧会担当/吉岡恵美子 広報担当/黒田裕子、落合博見、沢井美里  
 〒920-8509 金沢市広坂1-2-1  
 TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2806  
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: [press@kanazawa21.jp](mailto:press@kanazawa21.jp)



INSTITUT  
FRANÇAIS

JCDecaux



21



## 展覧会について

フランスを代表する女性作家のひとり、モニーク・フリードマンの本格的な個展を金沢21世紀美術館で開催します。マティス美術館(フランス)、エルメス財団ラ・ヴェリエール(ベルギー)、パサージュ・ドゥ・レッシ(フランス)を始めとする各地での個展や、ポンピドゥ・センター(フランス)による「彼女たち@ポンピドゥ・センター」展への参加などにより、高い評価を確立しているフリードマンを、日本のみならずアジアの美術館として初めて紹介します。

1970年代終わりから作家活動を開始したフリードマンは絵画制作を中心に据え、色と光の表現をカンヴァス、顔料、パステル、紐、紙などの素材を用いて追求してきました。自身の身体と素材との親密で双方向的なダイアログの中で浮かび上がっていく色やイメージには、時には作家自身も気がつかなかった自らのルーツや過去の記憶の断片が表出し、我々ひとりひとりの記憶や心をも揺さぶります。

近年では、ガラスやプレキシングラス、紙や布などを用いたサイトスペシフィックなインスタレーションも手がけているフリードマン。作家のこれまでの代表作から、当館の建築空間との対話で生まれた新作インスタレーションまで、計13点の作品を展示します。明るく白に満ちた当館の空間に、フリードマンは独自の色と光を放ち、我々の心と空間に不思議な余韻を残すことでしょう。

## 展覧会の特徴

### 話題のフランス人の女性作家、アジア初となる美術館での個展

近年、多くの美術館での個展や企画展で注目を集めてきたモニーク・フリードマンは、2009年にレジオン・ドヌール勲章をフランス政府より授与され、名実共にフランスの現代美術の「いま」を担う作家ですが、日本ではこれまで本格的に紹介されることはありませんでした。本展は日本のみならずアジアの美術館で開かれる初めてのフリードマンの個展であり、また当館としては初めてのフランス人作家の個展となります。

### 色と光を解き放ち、人の意識の深層へ語りかける空間へ

フリードマンは、「色」と「光」を独自の方法論、身体論で捉え表現しようとする過程で、人間の意識や感情の複雑な様相をも浮かび上がらせ、そして、それを見る者と作品が置かれる空間へと解き放ちます。用いる素材が何であろうと、彼女の作品は力強くも繊細に見る者の記憶や意識へと繋がり、展示される空間を作家独自の色と光で満たしながら、軽やかに異空間へと導きます。

### 光のカレイドスコープ

妹島和世+西沢立衛/SANAAによる当館の建築の中で、これまで追求してきた表現をフリードマンが新たに問い直します。特に、当館の「光庭」(中庭)を横切るガラス張りの通路にインスピレーションを得た作家は、この場所を大胆にも20色以上の色が降り注ぐ光の通路として作品《カレイドスコープ》へと転換しました。当館のスペースにあわせて作られた新作としては、本作品を含めて3点を発表します。

### ポンピドゥ・センターとの絆

2012年1月発行予定の展覧会カタログにはポンピドゥ・センターのキュレーター、カミュー・モリノー氏によるテキストが掲載されます。モリノー氏は、同センターが所蔵する20世紀から今世紀の女性作家の作品を刺激的な切り口で紹介した「彼女たち@ポンピドゥ・センター」(2009-2011年)の企画者で、その中でフリードマンの作品にも光をあてるなど、作家を高く評価しています。

## 作家プロフィール

### モニーク・フリードマン Monique Frydman

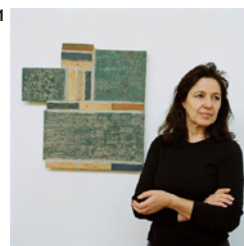


Photo: Raphael Frydman

1943年タルヌ県ナージュ(フランス)生まれ。現在、パリ、スナント(フランス)在住。トゥールーズ美術大学及びパリ美術大学で学ぶ。後に政治活動に傾倒するが、1974年に新しくスタジオを構え、制作活動を再開。インド、オーストラリア、アメリカ、日本など、世界各地を旅し、様々な文化環境からも刺激を受ける。色と光の表現を狭義での絵画の枠を越えて探求する。近年は大型のインスタレーションや、建築と一体化するようなコミッション・ワークも手がけている。ポンピドゥ・センター(パリ国立近代美術館)など、重要なパブリック・コレクションに作品が収蔵。マティス美術館(2006年、ル・カトー・カンブレジ、フランス)やエルメス財団ラ・ヴェリエール(2008年、ブリュッセル、ベルギー)での個展や、話題を呼んだポンピドゥ・センターの「彼女たち@ポンピドゥ・センター」に参加。日本では、解体前の在日フランス大使館の旧庁舎を舞台に繰り広げられた企画展「ノーマンズランド」展(2009-10年)への参加が記憶に新しい。2009年、レジオン・ドヌール勲章受章。

## 関連プログラム

## オープン記念 アーティスト・トーク

聞き手:吉岡恵美子(本展キュレーター)

[日時] 2011年11月23日(水・祝)14:00~16:00 [会場] 金沢21世紀美術館 レクチャーホール

[料金] 無料(ただし、本展観覧券が必要) [定員] 先着80名

[言語] フランス語/日本語の逐次通訳あり

\*作家との対談に出演予定であったカミーユ・モリノー氏(ボンビドゥ・センター キュレーター)は、急病により来日できなくなりました。対談に代えてオープン記念アーティスト・トークを行います。

## キュレーターによるギャラリーツアー (各回約30分)

[日時] 2011年12月17日(土)、2012年1月7日(土)、2月18日(土)、3月3日(土) 14:00~14:30

[集合場所] 金沢21世紀美術館 レクチャーホール [料金] 無料(ただし、当日の本展観覧券が必要)

## 絵本を読もう (各回約30分)

[日時] 2011年12月17日(土)、2012年1月7日(土)、3月3日(土) 11:00~11:30

[集合場所] 金沢21世紀美術館 レクチャーホール前 [対象] 子どもから大人まで [料金] 無料

## 詩の朗読 (約30分)

[日時] 2月18日(土) 16:00~16:30

[集合場所] 金沢21世紀美術館 レクチャーホール前 [対象] 子どもから大人まで

[料金] 無料(ただし、当日の本展観覧券が必要)

## 出版刊行物

展覧会カタログ『モニック・フリードマン』が刊行されます。

気鋭の写真家 豊永政史が撮り下ろした多数の展示風景や、作家へのインタビュー、テキストとともに同展を巡る充実の1冊。

『モニック・フリードマン』

仕様:200 x 200 mm 頁数:総96頁(カラー61頁)

言語:和/英併記 アートディレクション:豊永政史

定価:2,500円(税込) 発行:株式会社赤々舎 発売日:2012年2月1日



## 出品作品について

画像1~10を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。

Email: [press@kanazawa21.jp](mailto:press@kanazawa21.jp)

## &lt;使用条件&gt;

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送り下さい。

※アーカイブの為、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

展示室 14

新作

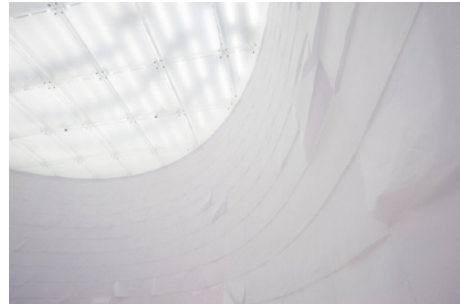
《ざわめき》  
Murmure

2,3.  
モニック・フリードマン  
《ざわめき》、2010-11年  
展示風景  
撮影:豊永政史

2



3

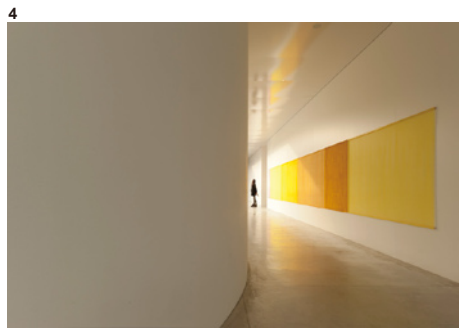


円形の展示室の壁面全面に約800枚の薄い紙を留めたインスタレーション。来場者の動きや空気の流れによって紙は浮き上がり、無限の動きを見せます。紙の奥の壁面にはごく淡い色彩が施され、紙がめくれ上がった瞬間に、もしくは薄い紙を透して、かすかな色が見る者の知覚を刺激します。紙の音は来場者の声や物音と混じり合って「ざわめき」を生み、目に見えない気配までも感じさせます。2008年にブリュッセルのラ・ヴェリエール(エルメス財団)で発表し大きな注目を集めた《ささやき》(Whisper)を当館の展示室にあわせて展開させた新作です。

展示室 14 横通路

《壁の黄色》  
「区域」シリーズより  
*Le Mural jaune,*  
from series *Les Aires*

4.  
モニク・フリードマン  
《壁の黄色》、「区域」シリーズより、2005年  
展示風景  
撮影：豊永政史



黄色を基調としたいくつかの画面(区域)が14.5メートルにもわたって連なる作品が通路に展示されます。素材のターラタン(糊付けした目の粗い薄地の布)は、絵画制作に使用する顔料を用いてフリードマンの手で微妙な色調に着色されています。透けるように薄いターラタンは、軽やかに重なり合い、揺れながら、来館者の目を捉え、次の展示空間へと導きます。

光庭のガラス通路

新作

《カレイドスコープ》  
*Kaleidoscope*

5,6.  
モニク・フリードマン  
《カレイドスコープ》、2010-11年  
展示風景  
撮影：豊永政史



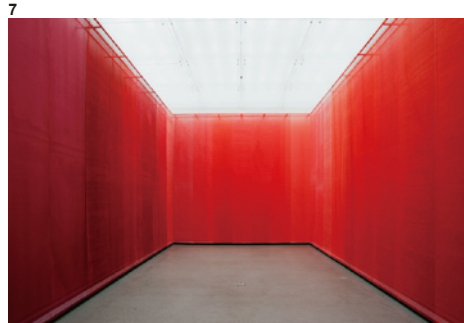
当館の中でも特徴的なスペースである、光庭(中庭)を横切るガラス張りの通路を、フリードマンは大胆にも作品に転換しました。20色以上の色彩の正方形から成るフィルムシートがガラスのトンネルを覆い、そこを通る来場者の体に色のシャワーとして柔らかく降り注ぎます。また、色は通路を超えて光庭や屋内の床や壁へと映り込み、来場者に新たな空間体験を促します。刻々と変化する太陽の位置やその日の天候も取り込む本作は、作家がこれまで追求してきた色と光の表現の新しい可能性を体感する場となるでしょう。

展示室 12

新作

《赤の部屋》  
*Red Room*

7,8.  
モニク・フリードマン  
《赤の部屋》、2010-11年  
展示風景  
撮影：豊永政史



作家が近年手がけてきた、ターラタンを用いた新作インスタレーションです。展示室14の作品《ざわめき》とは対照的に、赤く染めたターラタンのレイヤーが展示室の壁面全体を覆い、来館者を濃密な色彩の渦に包み込みます。作家によって微妙に異なる色合いの赤に染められたターラタンは、3層に重なり合あってモアレのような効果を生み、見る者の感覚や記憶を深く揺さぶります。

展示室 11

## 新作を含む絵画9点

9.  
モニク・フリードマンによる絵画  
展示風景  
左より:  
《白亜 5》(2008)  
《黄色いタイル床》(1989)  
《灰色》、「輝き」シリーズより(2004)  
《アマランス色》、「輝き」シリーズより(2004)  
撮影：豊永政史

10.  
モニク・フリードマンによる絵画  
展示風景  
左より:  
《アマランス色》、「輝き」シリーズより(2004)  
《金色 1》、「輝き」シリーズより(2005)  
《季節ーポナールとともに》(2010)  
《ナージュの婦人たち II, 2》(1995)  
《ナージュの婦人たち II, 1》(1994)  
《白亜 5》(2005)  
撮影：豊永政史



1980年代後半から最新作まで、厳選したフリードマンの絵画作品9点により、作家の表現活動の核を成す絵画制作のエッセンスを紹介します。カンヴァスの下に紐や小枝を置き、顔料とパステルの塊によって、思いがけぬイメージを表出させた最初のシリーズ「ナージュの婦人たち」から、同様の技法により大型の正方形の画面で単色の表現性を追求した「輝き」シリーズ、それを白一色という極限に突き詰めた「白亜」シリーズなどに加え、最新作の《季節ーポナールとともに》まで一堂に展示します。  
\*個々の絵画作品の画像をご希望の方はお問い合わせください。

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。